

市長と語る タウンミーティング
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成24年6月12日（火） 午後7時～8時27分
会 場 下福岡集会所（下福岡自治会）
天 気 雨

参加者 33人

主な意見等（◆・・・参加者 ☆・・・市長）

- ◆この辺の地域で地震が起きたときの揺れの想定はある程度できるが、津波の影響など無いと思っている。海拔はどれぐらいか。
- ☆8メートルから10メートルぐらい。
- ◆荒川からの逆流は想定できるのか。昔、荒川が決壊した際には、このあたりはすっかり水没してしまった。荒川が決壊すると新河岸川も当然駄目だろう。
- ☆荒川が決壊した場合の想定として2メートルから5メートルの水が来ることが予想されている。しかし、想定としては200年に一度のレベルである。今現在、国や県で防災計画の見直しをかけており、その中で今年の冬あたりにはもう少し明確な内容が示される予定である。
- ◆この辺の避難場所は福岡高校になっている。しかし、もうすぐ閉校となってしまう。是非、その後の活用について検討して欲しい。
- ☆富士見市にも大井町にも県立高校は無く、このエリアに県立高校が一枚も無かった時、この地域の皆さまのご協力とご理解をいただき誕生した高校である。これまでは在校生に配慮しデリケートな問題として捉え、具体的な活用方法等についてあまり表面的な話をしてこなかったが、先般、県にも有効的な活用についてお願いしてきた経緯もあり、現在、市としてどんな活用方法が考えられるかについて全庁的に検討しているところである。
- ◆福岡小学校あたりは海拔が11メートルある。ここはかなり違うので、ここが駄目でもあの辺まで逃げられれば大丈夫だと考える。ただ、橋が壊れてしまうとそれもできない。防災組織も平成5年につくったが、あって無いような状況である。是非、防災倉庫を公園に設置していきたい。市から20万円の補助をもらって設置する考えである。
- ◆大杉神社に下りるための階段を設置してもらいたい。すべって大変なので、これは県にも依頼した。
- ☆市としても確認させていただく。
- ◆ウォーキングなどでたくさんの方が歩いているが、公衆便所が無くて困っているようだ。是非、設置を望む。
- ☆即答はできないので持ち帰らせていただきたい。

◆公共下水道の関係について、川を挟んで東西の整備状況が違う。この関係で昨年12月に市からアンケート調査が来た。その内容が非常に理解しにくい内容であったが、要は、この地域には公共下水道は整備されないというような内容だったと思う。それでも、20年先、30年先のことで答えてくれと。何が聞きたいのか本当に分からなかった。調整区域の人たちは税負担をしていないから仕方ないと言うことかもしれないが、居住していく上での不公平感を感じる。基本的に入らないというのであれば、それなりの説明会を開いて欲しい。

☆説明する機会をつくりたいと思う。都市計画税の負担がある無しとの関係は確かにあるが、行政のトップはいつの時代も耳ざわりの良いことを言いたがるもの。旧上福岡も旧大井も両地域の調整区域について、下水を整備する計画になっているので、それが50年先の計画であっても整備計画はあると話すが、いつかやると棚上げにしていると、合併浄化槽についての補助が使えないのが現実である。いつやるかわからないが「やる」という計画があると合併浄化槽をやろうとしても補助が出ないので、この話については行政が勝手に判断し決めるべきものではないので、当事者の皆さんと直接話し合いを行っていききたい。

◆新河岸川があるために下水が引けないという話を聞いたことがあるが、本当か。できない理由の言い訳のように聞こえたが、それをクリアできる方法はないのか。

☆多額の費用をかければ可能であったのかもしれないので、川の関係は理由付けであったのかもしれない。いつかやると繰り返すより、今何を選択すべきかを皆さんとしっかり議論していききたい。

◆陸の孤島扱いはしないで欲しい。平等に扱っていただきたい。

☆合併して市域が広がったので、西地域にもかねてからの課題が山積していることが分かった。関越の向こう側の地域については、普通の雨降りの状況でも常に土のうが必要である。雨が溜まらない方法を何とか早く考えなければならぬ。同じふじみ野市民の皆さんが不公平感を感じないように直接対話の手法をとりながら課題解決に努めていきたい。防災計画についても地域の特性を踏まえ見直しを図っていく。

◆要援護者の関係について、助けてあげたくても情報が無くて困っている。地域の中で皆が把握していないとその機能が働かない。

☆この地域では5人の方が手を挙げているので、どこの誰が実際の救出作業をするのかというプランを立てたいが、この地域はまだできていない。本人の同意がないと機能しないこのしくみについては見直しを図り、強制的に助けられるしくみづくりをしたい。

◆障がい者を抱えているが、この地域の避難場所は福岡高校になっている。バリアフリーにはなっているのか。無ければそうして欲しいし、中の構造についてまったく分からないので、その辺の説明も詳しくして欲しい。日頃からの心構えをするための情報を流して欲しい。

☆福岡高校は福祉に力を入れていたので、バリアフリー化されており、エレベーターも設置されている。福岡高校の他、要援護者に対応できる避難場所として、太陽の家やフクトピアが挙げられている。是非、避難訓練等に参加いただき、現場を見ていただきたい。このような機会で市民の皆さんと対話することにより、様々な気づきが生まれる。このタウンミーティングの他にも「ふれあい座談会」も実施しているが、障がい者団体の皆さんと実際にいろいろな話をさせていただいた際にも、様々な悩みや不安を抱えていらっしゃる事が理解できた。こういった内容を防災計画に反映させていきたい。この地域は比較的、避難場所に向かうのに障害が少なく行きやすい地域だと思われるが、震災は起こった時間帯や曜日、季節によって避難場所まで安全に辿り着けるか不安な状況も考えられるので、必ず地域の避難場所に避難するという認識を改めてもらいたい。どんな状況の時でも、まずは自分の身の安全を確保できる場所を探してそこに身を移して欲しい。そこが、畑であっても公園であっても、まずは命を守るために必要な手段として安全な場所に逃げていただきたい。そして、いざという時の地域力は皆さんが主役であるということを強く申し上げたい。このメッセージをお伝えするために、54町会を廻って直接話をさせてもらっている。

◆ライフラインの中で水道が一番危ないのではないか。井戸水の活用について積極的に考えてもらいたい。

☆揚水組合と協定を結び、検査等実施しながら確保に努める。この他、食糧については3日間を何とか繋げていきたい。市で1日、県で1日、皆さんのご家庭の買い置き等で1日を想定している。橋の安全をチェックする予算も今年度で措置している。

◆8月が消費期限のアルファ米を全戸配布する予定である。

◆3.11の放射能の影響が狭山茶にも出たと思うが、学校等への影響はどうなっているのか。

☆雨どい付近の数値が高かったりしたが、除染作業をしたのでそれほど大きな影響は無かった。一箇所、南台のあすなろ公園の測定値が高かったので土壌の除染作業を行った。

◆今も測定しているのか。

☆学校、保育所等において定期的に測定を継続している。市民の皆さんへ測定機の貸し出しも行っている。狭山茶も今は安全が確認されている。

◆焼却場はどうなっているのか。早くしないと合併特例債の期限切れになってしまう。

☆おっしゃる通り。平成27年度までには完成する予定である。

◆福岡高校は土日に学校開放を行っているが、市外あるいは県外からたくさんの方で来校している様子で、付近の道路の片側がずらっと長い距離でふさがれてしまっている。一方通行並みで非常に危険であるし、農作業のじゃまになって

- いる。正門の内側には駐車していない様子なので何とかならないか。
- ☆早速、福岡高校側にお伝えする。
 - ◆舗装道路の改修が必要な場所が数箇所あるので、整備して欲しい。
 - ☆後で確認させていただく。即、対応できることと、そうでないこととあるが、そういった現状を話していただくのが大切である。